

## 2022年の大学統合までの大阪府立大学「数学教室」の変遷

まずは大阪府立大学の「歴史」から。公式ページ<sup>1</sup>によりますと、そもそもの大阪府立大学の「起源」とされているのは現在りんくうキャンパスにある獣医学部の祖先である「獣医学講習所」が1883年(明治16年)に開設されたことだそうで、2023年にはその時から140周年になります。同ページによりますと、『「大阪府立大学」(旧)は、1949年(昭和24年)に、大阪府下にあった旧制の7つの専門学校が母体となり「浪速大学」(1955年「大阪府立大学」に改称)として、また、「大阪女子大学」は同じく1949年に、大阪府女子専門学校を母体に、「大阪府立看護大学」は、戦前の大阪府立社会衛生院以来培われてきた医療人材育成の流れを受けて、1994年に、それぞれ大阪府により設置されました。』とあり、浪速大学は工学部、農学部、教育学部の3つの学部と教養部(1952年に教育学部に吸収される形で廃止)、工学部別科(1950年に短期大学部に改称)からなる総合大学としてスタートし、1954年の大学院工学研究科、1954年の経済学部などの設置を経て1955年に名称が大阪府立大学に変更されました<sup>2</sup>。大阪にある架空の大学として「浪速大学」という名前の大学が「白い巨塔」やNHKの「舞い上がれ!」といったテレビドラマなどで出てきていますが、1949年から1954年まで、僅か6年間ですが実在していました。また、大阪女子大学は当初「学芸学部」のみの単科大学として設置され、50年後の1999年に「人文社会学部」と「理学部」へと改組されています<sup>4</sup>。

再び公式ページ<sup>1</sup>からの引用ですが、『「大阪府立大学」(旧)は、「実学を重んじる大学」として工学、農学、経済学、総合科学、社会福祉学の各分野において、「大阪女子大学」は「リベラルアーツ」の理念のもと、優れた女性人材の輩出や女性学をはじめとする諸領域において、国際的にも高く評価される研究・教育を行ってきました。』とあり、「大阪府立大学」(旧)には純粋に自然科学の研究を行う理学部のような学部はありませんでした。大阪府立大学のあゆみ<sup>2</sup>をながめていきますと、一旦は教養部を吸収した教育学部が「大阪府立大学」(旧)になってから2年で廃止され、再度教養部が1957年に復活したのですが、教養部が行ってきた全学の一般教育も担当する「総合科学部」が1978年に設置されて教養部が廃止されました。この辺は「大学をより良いものにしようという志」以外に何か「大人の事情」があって、このような改組がなされたのか筆者には分かりませんが、学内政治の力学や大阪府や府議会からの外圧でもあったのかなと想像してしまいます。

それはともかくとして、1978年に大阪府立大学の数学教室(に相当するもの)として総合科学部内に「計量科学講座」が開設されました。講座名が「計量科学」という名前になった由来を聞いた時に、工業短期大学部からの教員の受け皿として開設された「計測科

学講座」(なぜ工学部が受け皿にならなかったか不思議ですが)との対としてそのような名前になりましたと説明をされて「誰もこの変な名前にツッコミを入れなかったのか?」と釈然としなかった記憶があります。総合科学部には計量科学講座、計測科学講座の他に文系の講座も含めて全部で10講座あり、総合科学部開設10周年を記念して発刊された「10年のあゆみ」<sup>3</sup>によりますと、1988年度の計量科学講座の教員構成は教授3名、助教授7名、講師7名、助手4名の計21名で、専門分野は解析学が9名、代数学、幾何学、数学基礎論、情報数学、応用数学が各2名、統計学、図学が1名ずつとなっていました。

総合科学部では学生の講座の配属は2年次でしたので、1979年度から計量科学講座には数学や情報科学を専門に勉強する学生が入り、「数学教室」の形ができました。「10年のあゆみ」<sup>3</sup>にある卒業生の1981年度から1986年度別の進路の表を見ますと、卒業生の数が1981年度から順に、10名、6名、11名、12名、13名、10名となっていましたので、当時は例年10名前後の学生が計量科学講座に配属されていたようです。(定員は確か15名だったように記憶しています。)この6年間の卒業生62名の進路は、大学院進学が16名、教員が9名、公務員が5名、一般企業が32名でした。

一方、総合科学部の設置に先立ち、1971年に工学部に数理工学科が設置されており、そちらには主に解析学や応用数学、統計学の教員が在籍して、そちらの方でも数学を専門に勉強する学生がいましたので、1979年度から2018年の工学域数理システム課程の学生募集停止まで、大阪府立大学には工学部(2012年に工学域に改称)にも数学教室がありました。なお「計量科学講座」は1988年4月から「数理科学講座」に名称変更され、その際に数理工学科から「うちと紛らわしい名前に変えるな。」と横槍が入ったそうですが、その圧力に屈しませんでした。記憶が定かではありませんが「『工学』は『科学』とは別物なので数理科学と数理工学を紛らわしいというのは見識を疑います。」という反論をしようという発言が計量科学講座の会議の席であったような気がします。(知らんけど。)「計量科学」という言葉に私が抱いていた違和感と同じものを持っていた先生方がやはり多かったようで、総合科学部開設から10年の時を経てようやくまともな名称に変更されてよかったと当時は思いました。今から思えば、工業短期大学部からの教員の受け皿の「計測科学講座」を開設するために本来「数理科学講座」であるべきはずの講座を総合科学部としての整合性を取るために「計量科学講座」という名前にして、当時の文部省への設置認可申請書を書き、10年後のほとぼりが冷めた時に講座名の改称を行ったのではないかと推測します。(これも筆者個人の見解で根拠はありませんが、何か政治的な匂いを感じてしまいます。)

話が前後しますが、大学院に関しては1982年には「情報科学専攻」(数学専攻でなかつ

たのが残念)を含む3つの専攻を持つ、「総合科学研究科」という大学院が設置されました。さらに1993年に設置された博士後期課程も含む「理学系研究科」に理系の専攻は改組され、「情報科学専攻」という数学とは無関係に思える専攻名が「情報数理科学専攻」という名前に改称された専攻が理学系研究科内に置かれました。でも当時は情報科学の教員の数に数学の教員の数に比べて少ないにも関わらず「情報」が「数理」の前についているのは、数学の教員としては個人的に不満が残りましたが、大阪府立大学の「数学教室」としての形はこの時点で一応完成したと考えられます。

そして2005年4月、大阪府知事が太田房江氏の時に「大阪府立大学」(旧)、「大阪女子大学」,「大阪看護大学」(1978年に開設された大阪府立看護短期大学と大阪府立公衆衛生専門学校を母体として1994年に設置)の三大学が統合され、(旧)でない大阪府立大学が発足しました...今となっては(旧)ですが、前述のように1999年に大幅な改組を行った大阪女子大学にとっては、たった丸5年での大学統合ですから大阪女子大学の先生方にとっては「堪忍してくれよ」という気持ちだったのではと思います。この時に全学の一般教育を担っていた総合科学部の役割は学生を持たないかつての教養部の名前を変えただけの「総合教育研究機構」(2011年に「高等教育推進機構」に改称)引き継がれた一方、大阪府立大学の理科系の先生方の念願であった「理学部」が設置され、情報数理科学科が理学部に設置されました。ただこの当時、大阪府からの要請<sup>4</sup>で情報数理科学科に占める情報科学が専門の教員の割合が高くなっていったこともあり、筆者としては個人的には情報数理科学科での居心地の悪さを感じていた一方、総合教育研究機構にも数学の教員が必要ということで、筆者を含む10名の旧総合科学部の数学の教員が大阪女子大学からの3名の数学の教員とともに総合教育研究機構に移籍しました<sup>4</sup>。

大学院の「理学系研究科情報数理科学専攻」の方はそのまま担当していましたので、2005年の新学期の授業で教室に行った時、教室には10名ぐらいの女子学生だけしかなくて、これは完全に教室を間違えた(大阪府立大学に着任一年後ぐらいの大昔に一度やらかして大変恥ずかしい思いをした記憶が甦りました)と思い、念の為恐る恐る近くにいた学生に授業科目名を聞いたら間違いではないことが分かり、全員大阪女子大学出身の学生だったというのがオチでした。その時に女子大学と合併するとはこういうことかと思い知り、カルチャーショックならぬ「ジェンダーショック」みたいなものを受けた記憶が鮮明に残っています。公式ページ<sup>1</sup>にあるように『「大阪府立大学」(旧)は、「実学を重んじる大学』』とされてきたせいか、解析学はともかく代数学や幾何学といった純粋数学に興味を持ってくれる学生が極めて少なかったのに比べて、大阪女子大学出身の学生は「理学部」の設置が一足早かったこともあり、純粋数学に興味を持つ学生が多く

て、幾何学の授業をしに行ったら大阪女子大学出身の学生だけだったという現象が起きたのではと考えています。

大阪府立大学の改組はまだ続きます。2012年4月、大阪府知事が橋下徹氏の時に文系の学部の「経済学部」と「人間社会学部」を「現代社会システム科学域」に統合し、工学部は「工学域」への名称変更、「生命環境科学部」（旧農学部）と「理学部」を「生命環境科学域」に統合、「看護学部」と「総合リハビリテーション学部」を「地域保健学域」に統合するという劇的と言える大幅な改組が行われました。そのため、大阪府立大学の「理学部」は丸7年で消滅し、理学部内の学科の多くは「生命環境科学域」の中に置かれた「自然科学類」の課程に移行しましたが、学域の教育組織としての情報数理科学科は自然科学類には入らずに廃止という道を選びました。一方、数学と物理の寄り合い所帯だった工学部の数理工学科を解体して工学域電気電子系学類の中に「数理システム課程」が開設<sup>5</sup>され、そこに情報数理科学科と数理工学科に7名ずつ在籍していた数学の教員が所属することになりました。これにより、情報数理科学科の情報系の教員と数理工学科の物理の教員とは袂を別って数学の教員だけの学科が工学域にでき、1978年に「計量科学講座」が開設されて以来、初めて大阪府立大学の数学教室が一つにまとまりました。その際に高等教育推進機構に所属する教員は、「兼担」として数理システム課程に加わりましたので、筆者は2012年度に久しぶりに4年次の学生の卒業研究を指導しました。大学院の理学系研究科情報数理科学専攻と工学研究科電子・数物系専攻の数理工学分野はそのまま存続していました。

さらに2018年4月にも改組があり、生命環境科学域に自然科学類に代わって「理学類」が置かれ、その中に「数理科学課程」が開設されました。そこに数理システム課程に所属する教員全員と筆者を含む3名の高等教育推進機構の教員が移籍し、工学域の数理工システム課程は廃止されて、工学域にあった大阪府立大学最古の「数学教室」は1971年の設置から47年で消滅しました。また、大学院も情報系の教員が抜けたため「数理科学専攻」と改称され、そこに工学研究科電子・数物系専攻の数理工学分野に所属していた数学の教員が合流して、大学院の数学教室も一つにまとまりました。形の上で、情報数理科学科に属していた数学の教員は「元の鞘」に収まった一方で、数理工学科に属していた数学の教員は工学域を離れたので、工学域から数学の教員はいなくなりました。この改組で、数理科学課程に18名、高等教育推進機構に5名の数学の教員が所属することになり、受け入れる学生は数理科学課程が25名、数理科学専攻の博士前期課程が15名となりました。

そして2022年度の大学統合を迎えたのですが、大阪公立大学の学生は現時点ではまだ

1年生だけで、中百舌鳥キャンパスの4分の3は旧大阪府立大学の学生です（大学院修士課程は半分ですが。）そして今年度数理科学課程に配属された25名の学生が、数理科学課程最後の学生ということになりますので、たったの4期生までで終わってしまうのは、仕方がないことですがやはり残念な気持ちになります。現在の中百舌鳥キャンパスの旧大阪府立大学の数理科学課程の教員構成は教授6名、准教授12名、高等教育推進機構の数学の教員は教授1名、准教授3名で、専門分野は、解析学が8名、代数学が6名、統計学が5名、幾何学が2名、数学基礎論が1名となっています。

大学をより良いものにしようという純粋な志でこのような度重なる統合・改組が行われてきたのだと信じることにして、現在の設置者のスローガンである「身を切る改革」を忠実に実行した（思いっきり身を切られました）上で、「大阪都構想」は実現しなかったにもかかわらず府市統合の象徴としての「大学統合」が実現したのは、旧大阪市立大学と旧大阪府立大学の将来にとっては良いことであると願ってやみません。ただ、大阪府立大学が設置されて以来現在に至るまで、どれほど多くの教員が本来の業務である研究と教育以外に多大なエネルギーと時間を費やして（費やさされて）きたのかは想像に難くありませんので、筆者個人としては正直複雑な気持ちです。

## 参考資料

1. 大阪府立大学の歴史・沿革 <https://www.osakafu-u.ac.jp/info/outline/history/>
2. 大阪府立大学のあゆみ  
<https://www.osakafu-u.ac.jp/omu-content/uploads/sites/1162/ayumi20190201.pdf>
3. 「10年のあゆみ」大阪府立大学総合科学部 1988
4. 石井伸郎, 入江幸右衛門, 「数学教室だより 大阪府立大学数学教室」『数学通信』10巻2号, p.140-143 <https://mathsoc.jp/publication/tushin/1002/osakafu-u.pdf>
5. 田畑稔「数学教室だより 大阪府立大学数学系」『数学通信』19巻2号, p.70-73  
<http://mathsoc.jp/publication/tushin/1902/osakafu-u.pdf>

(文責：山口睦)